

校内研究だより 第4号

南関第三小学校
令和8年9月24日
研究主任：石田

【研究主題】

相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【学校教育目標】

やさしく・しっかり考え・たくましい
「南関三小っ子」の育成

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

仮説① 書くことにおける基礎基本の定着を図り、単元構想や学習展開の工夫などを行えば、相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成ができるだろう。

9月11日（金）第5校時、右田先生が6年国語の研究授業を行いました。

○単元名「デジタル機器と私たち 5／8」（光村図書「国語6」）

①前時のふりかえり



②見通しをもつ。



③効果的な ICT 活用



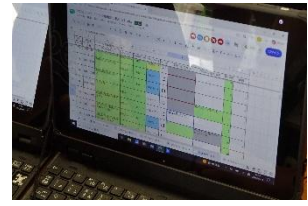
④班での協議



⑤全体共有



⑥振り返りを行う。



提案内容について、班ごとに話し合いを行い、自分たちの構成を考える活動ができていた。

右田先生が、班を回って細やかなアドバイスをされていた。構成について真剣に考えていた。

授業の前には、漢字スキル音読が取り入れられ、読みの徹底ができていた。スピード音読が行われていた。

★共通実践事項

○国語科スタンダード

○交流学习において、根拠をもとに説明し合う

裏面へ

※R8年度、「学校化」を目指して取り組んでいきましょう。よろしくお願いします。

授業後の感想の紹介です。

毎回とても勉強になります。タブレットを全員使いこなしており、取り残される児童がいないことがとても素晴らしいと思います。授業に入る前に漢字の読みを全員がしており、習慣化と定着の必要性や重要性を学ぶことができました。(松山先生 一部抜粋)
日頃から ICT の活用をされていて、的確な指示、板書など工夫をされているからこそ、子供たちの学びが深まっているのだと思いました。とても勉強になる授業でした。(西先生)
学級の指示的風土をつくっていただいた右田先生に感謝しています。3人が教室での学びを安心して取り組めていることで、自身につながっています。交流学級の仲間とのつながりを大切にしていることも伝えていきながら、6年生と一緒に前進していきたいです。(中村先生)

◎グループ協議で出た意見

良かった点	・子供たちがそれぞれに考えを持っていて自分事として学習を捉えていた。 ・学びの手順が示されていて確認しながら進められていた。 ・ICT 機器の使い方が高められていた。 ・机間指導の声かけも温かかった。 ・ICT 活用能力が素晴らしい。国語のスタートもよかった。 ・授業に向かう子供たちの姿がとても伸びていると思う。日頃の指導のたまものである。
課題→改善策	・順序の意図の議論がされたらよいと思った。児童が出した答えを比べさせて、どちらがよいのかという議論が途中でできると良かった。 ・順序について、児童に意図があればそれでもいいのではないかなと思う。意図があるかどうか。意図の議論をすればよかったのではないかなと思う。 ・意図をもって議論することで、説得力につながると思う。

授業者 右田先生より

・机間指導で子供たちの議論を把握し、中間指導を入れるとさらに話し合いの質が高まったと思った。 ・黒板と発表ノートリンクが必要だった。 ・児童同士の意見の違いから議論につなげるとよかった。 ・キーワードを使ってまとめることを意識したので、最後の板書に空白ができてしまったので、キーワードを数枚準備しておく良かった。
--

睦合小学校 藤本 裕衣 教諭（講師）より

・ICT を数多く活用した授業で、子供たちも操作に慣れている。 ・子供たちが協力し、助け合いながら学習していた。 ・リーダーとなって、引っ張る子が育っている。 ・先生の指示や発言にメリハリがあり、わかりやすい。 ・授業の基盤である、学級の指示的風土がるので、子供たちが安心して学んでいる。
--